

平成22年度 第5回 藤島地域審議会次第

日 時 平成23年2月9日(水)

午前9時30分～

場 所 202・203・204 会議室

1 開 会

2 会長挨拶

3 協 議

(1)学校適正配置検討作業について

(2)地域後継者(農業分野)の育成方策について

(3)その他

4 その他

5 閉 会

学校適正配置検討作業について

学校教育課

1. 学校適正配置の基本的事項

背景

■少子化による児童生徒数の減少

- ・複式学級、完全複式校の増加
- ・学年単学級の増加
- ・小規模校の持つ課題が顕著に
- ・少子化の状況が今後も続く見込み

目的

■子どもにとって望ましい教育環境の整備を目的とする

「子どもにとって望ましい教育環境は何か」という視点を基本に据え、鶴岡市として目指す学校規模の実現に努める。

目標

■複式学級の解消を最大の目標とする

個に応じた指導が大切にされ、適正な規模の集団の中で学び合うことが子どもの成長にとって望ましい

基本方針

- 本市の小学校、中学校として、目指すべき学校規模を定める
- 本市の目指す学校規模を検討の基準とするが、絶対的基準ではなく、目安とする
- 学校と地域との関係に配慮し、地域と連携し作業を進める

2. 児童・生徒数の状況

鶴岡市の状況（平成22年国勢調査結果・山形県速報より）

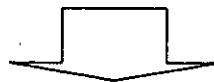
- (1) 山形県総人口 1,168,789人（平成22年10月1日現在）
平成17年国勢調査と比較し47,392人減少、3.90%減
- (2) 鶴岡市の人口 136,627人
平成17年国勢調査と比較し5,757人減少、4.04%減

小学校児童数の状況

- (1) 鶴岡市の小学校の児童数は、平成22年度の実数で7,232人
- (2) 平成28年度推計では6,285人で、6年間で約1,000人減の見込み
- (3) 平成元年の11,869人に対し、30年足らずで半減の見込み

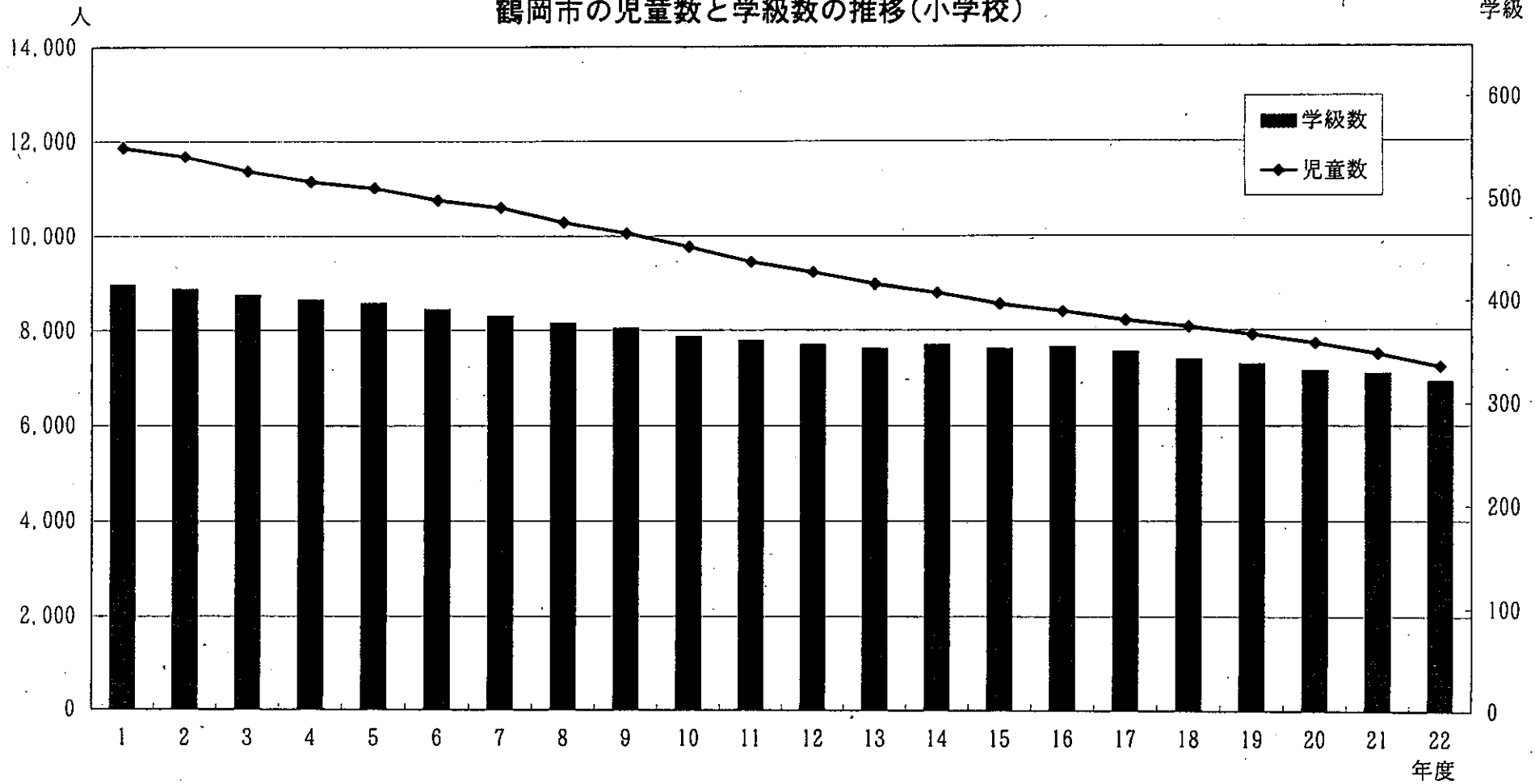
中学校生徒数の状況

- (1) 鶴岡市の中学校の生徒数は、平成22年度の実数で4,043人
- (2) 平成28年度推計では3,512人で、6年間で約500人減の見込み
- (3) 平成元年の6,385人に対し、30年足らずで2,873人減の見込み



今後も減少することが見込まれる

鶴岡市の児童数と学級数の推移(小学校)



年度	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	元-22減少率 (%)
学級数	416	412	406	401	398	392	385	378	373	365	361	357	353	357	353	355	350	343	338	332	329	321	△ 22.9
児童数	11,869	11,689	11,367	11,146	11,013	10,758	10,603	10,291	10,064	9,776	9,449	9,230	8,977	8,794	8,557	8,400	8,208	8,076	7,906	7,719	7,503	7,232	△ 39.1

※学級数には特殊学級を含まない

旧市町村ごとの児童数と学級数の推移

学級数

単位：学級

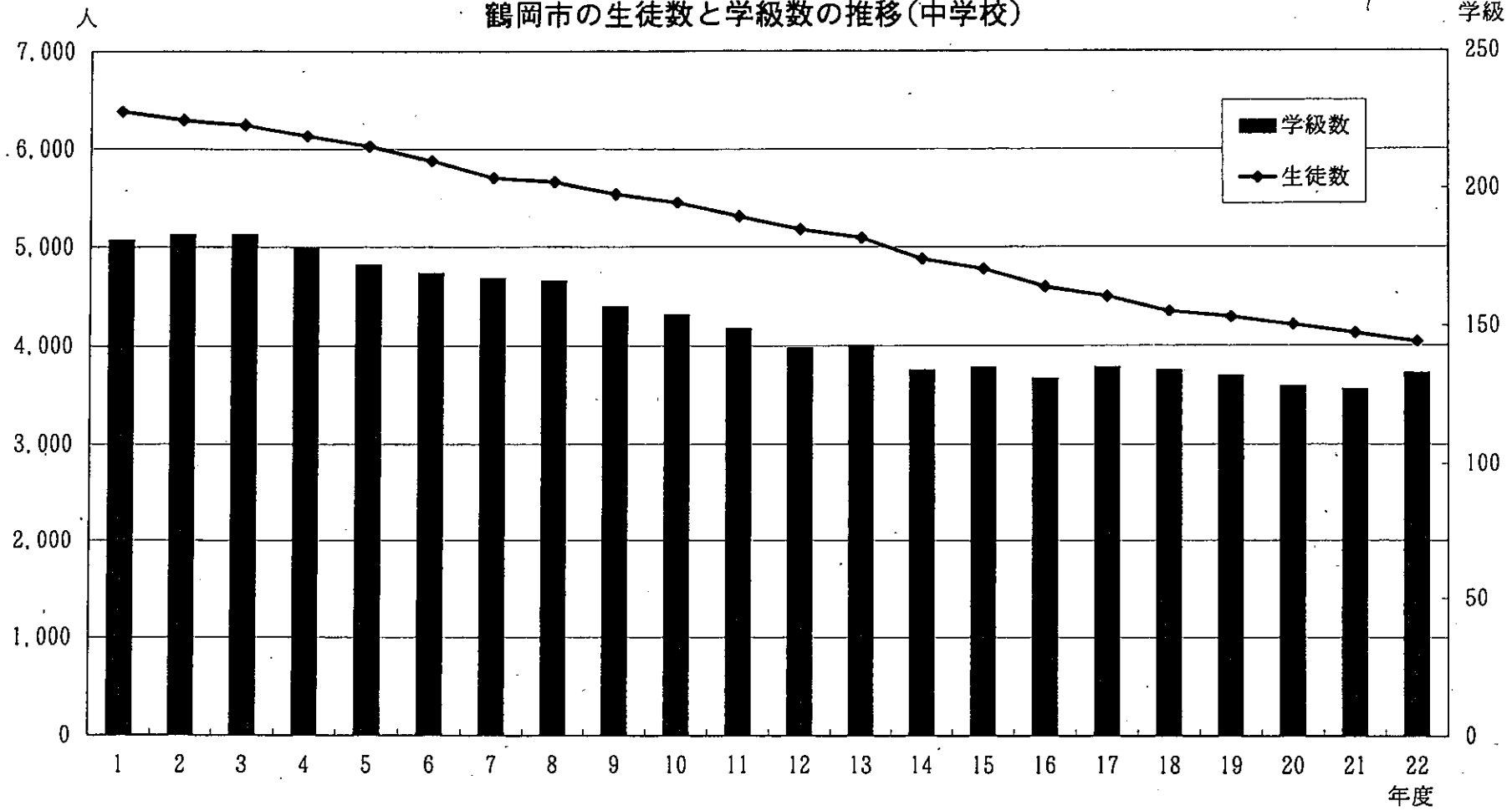
年度	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	元-22減少率 (%)
鶴岡	252	248	246	242	241	234	232	230	225	224	223	223	220	225	226	226	225	224	226	221	220	216	△ 14.3
藤島	37	36	35	34	33	32	31	31	30	30	30	30	30	31	32	33	33	32	32	32	31	30	△ 18.9
羽黒	31	32	32	32	31	33	32	31	31	28	27	25	26	24	23	24	22	23	22	21	23	22	△ 29.0
櫛引	31	31	29	29	30	29	27	27	28	25	26	25	25	26	26	26	25	22	21	21	20	19	△ 38.7
朝日	24	24	25	25	24	25	25	25	25	25	22	24	23	23	20	19	17	14	12	12	12	12	△ 50.0
温海	41	41	39	39	39	39	38	34	34	33	33	30	29	28	26	27	28	28	25	25	23	22	△ 46.3
計	416	412	406	401	398	392	385	378	373	365	361	357	353	357	353	355	350	343	338	332	329	321	△ 22.9

児童数

単位：人

年度	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	元-22減少率 (%)
鶴岡	7,672	7,578	7,398	7,292	7,240	7,071	7,000	6,839	6,699	6,560	6,393	6,316	6,133	6,041	5,876	5,801	5,662	5,618	5,575	5,477	5,328	5,130	△ 33.1
藤島	1,093	1,058	1,029	989	961	922	906	875	824	819	765	734	715	692	697	684	681	683	644	643	632	615	△ 43.7
羽黒	824	834	816	797	788	791	792	748	734	695	649	615	589	570	556	534	541	518	508	476	487	471	△ 42.8
櫛引	775	772	730	707	694	666	657	641	648	624	611	592	579	561	552	521	508	496	463	458	429	416	△ 46.3
朝日	532	522	519	532	521	505	488	451	438	404	376	380	369	362	329	324	298	272	249	226	216	196	△ 63.2
温海	973	925	875	829	809	803	760	737	721	674	655	593	592	568	547	536	518	489	467	439	411	404	△ 58.5
計	11,869	11,689	11,367	11,146	11,013	10,758	10,603	10,291	10,064	9,776	9,449	9,230	8,977	8,794	8,557	8,400	8,208	8,076	7,906	7,719	7,503	7,232	△ 39.1

鶴岡市の生徒数と学級数の推移(中学校)



年度	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	元-22減少率 (%)
学級数	181	183	183	178	172	169	167	166	157	154	149	142	143	134	135	131	135	134	132	128	127	133	△ 26.5
生徒数	6,385	6,302	6,252	6,138	6,026	5,880	5,701	5,660	5,536	5,448	5,308	5,177	5,093	4,881	4,779	4,594	4,499	4,350	4,291	4,211	4,128	4,043	△ 36.7

※学級数には特殊学級を含まない

旧市町村ごとの生徒数と学級数の推移

学級数

単位：学級

年度	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	元-22減少率 (%)	
鶴岡	116	114	113	111	109	107	107	107	101	100	97	94	94	89	92	87	91	89	88	84	83	89	△ 23.3	
藤島	15	15	15	15	15	15	15	15	15	14	13	12	13	12	11	11	11	11	11	11	12	12	△ 20.0	
羽黒	10	11	12	12	12	12	11	11	11	12	12	9	11	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9	△ 10.0
櫛引	10	11	11	11	12	12	11	10	9	9	9	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	△ 10.0
朝日	6	7	8	8	8	8	9	9	9	9	8	7	6	6	6	6	6	7	6	6	5	5	△ 16.7	
温海	24	25	24	21	16	15	14	14	12	10	10	10	10	8	8	9	9	9	9	9	9	9	9	△ 62.5
計	181	183	183	178	172	169	167	166	157	154	149	142	143	134	135	131	135	134	132	128	127	133	△ 26.5	

生徒数

単位：人

年度	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	元-22減少率 (%)
鶴岡	4,245	4,116	4,077	3,976	3,891	3,804	3,712	3,714	3,663	3,586	3,499	3,364	3,346	3,230	3,226	3,115	3,094	2,999	2,932	2,854	2,820	2,815	△ 33.7
藤島	563	557	552	565	564	545	522	504	501	474	468	444	450	422	394	384	353	347	344	353	353	337	△ 40.1
羽黒	409	433	445	437	442	420	392	393	399	417	392	397	382	357	330	311	293	284	279	282	269	261	△ 36.2
櫛引	376	382	389	389	395	401	382	375	326	331	326	349	334	320	303	298	298	283	277	271	274	252	△ 33.0
朝日	248	258	259	254	254	251	269	268	267	262	248	231	218	201	205	183	179	175	182	181	143	132	△ 46.8
温海	544	556	530	517	480	459	424	406	380	378	375	392	363	351	321	303	282	262	277	270	269	246	△ 54.8
計	6,385	6,302	6,252	6,138	6,026	5,880	5,701	5,660	5,536	5,448	5,308	5,177	5,093	4,881	4,779	4,594	4,499	4,350	4,291	4,211	4,128	4,043	△ 36.7

3. 本市小中学校の数と規模

■小学校 全40校(児童数7,232人)

・鶴岡地域	21校	(児童数5,130人)
・藤島地域	4校	(" 615人)
・羽黒地域	4校	(" 471人)
・櫛引地域	3校	(" 416人)
・朝日地域	3校	(" 196人)
・温海地域	5校	(" 404人)

■中学校 全11校(生徒数4,043人)

・鶴岡地域	6校	(生徒数 2,815人)
・藤島地域	1校	(" 337人)
・羽黒地域	1校	(" 261人)
・櫛引地域	1校	(" 252人)
・朝日地域	1校	(" 132人)
・温海地域	1校	(" 246人)

※特別支援学級は在籍者数による変動が大きいため含めていない

※平成22.4.1現在



平成17年10月の新市合併時と変更なし

鶴岡市立小学校および中学校通学区域表

(「鶴岡市立小学校及び中学校区域に関する規則」別表)

平成17年10月1日施行 平成19年4月27日一部改正

通学すべき学校	通学区域
朝陽第一小学校	本町二丁目、三和町、睦町、三光町、双葉町、文園町、千石町、長者町、城南町、海老島町、のぞみ町、日枝
朝陽第二小学校	本町一丁目、昭和町、大東町、神明町、苗津町、日出一丁目、日出二丁目、東原町、伊勢原町、桜新町、ほなみ町、苗津
朝陽第三小学校	錦町、新形町、上畑町、山王町、泉町、若葉町、家中新町、馬場町、東新斎町、宝田一丁目、城北町、大部町、日和田町、茅原町、余慶町、茅原、新形、大宝寺字日本国
朝陽第四小学校	本町三丁目、陽光町、稲生一丁目、稲生二丁目、美原町、青柳町、小真木原町、新海町28番10～17号、柳田(朝六小通学区域を除く)、善田、井岡乙143番地・丙153番地・字塔の腰・字和田(大泉小通学区域を除く)・字沢田46番地8・46番地13・46番地15・165番地2・185～334番地1・字御衣田
朝陽第五小学校	道形町、大宝寺町、末広町、日吉町、宝町、鳥居町、切浜町、朝陽町、宝田二丁目、宝田三丁目、文下、道形、大宝寺字立野・字中野・字大宝地
朝陽第六小学校	新海町(朝四小通学区域を除く)、みどり町、大西町、西新斎町、砂田町、淀川町、道田町、大塚町、美咲町、柳田字田中36～38番地、小淀川、布目
斎小学校	斎藤川原、勝福寺、我老林、外内島、遠賀原、八ツ栗屋、伊勢横内
黄金小学校	青龍寺、滝沢、寿、中橋、高坂、民田、上山谷、金谷、谷定
湯田川小学校	湯田川、藤沢
大泉小学校	白山、矢馳、山田、大淀川、寺田、井岡甲・乙144番地・丙(153番地を除く)・字和田305番地2・318番地3・386番地・390番地1・字塔の腰138番地3・字沢田(朝四小通学区域を除く)・字奈良岡、岡山、森片、上清水、中清水、下清水、清水新田
京田小学校	高田、北京田、梵岸寺、荒井京田、福田、豊田、林崎、安丹、中野京田、平京田、西京田
栄小学校	本田、小京田、播磨、平田、中京田、湯野沢
田川小学校	田川、少蓮寺、閻根、東目、坂野下、砂谷、大机
上郷小学校	水沢(字割田31の2番地を除く)、大広、中山、矢引、中沢、大荒、西目、みずほ
三瀬小学校	三瀬
小堅小学校	小波渡、堅苔沢
由良小学校	由良一丁目、由良二丁目、由良三丁目、由良
加茂小学校	加茂、今泉、油戸、金沢
湯野浜小学校	湯野浜一丁目・湯野浜二丁目・湯野浜、宮沢、下川字龍花崎(41番地633～41番地1009・41番地1086を除く)・字七窪(2番地544～78番地198を除く)・字東海林場・字窪畑(183番地・204番地299・204番地349・204番地397を除く)
大山小学校	大山一丁目、大山二丁目、大山三丁目、友江町、平成町、大山、友江、栃屋、下興屋、下小中、中橋、菱津、馬町(西郷小通学区域を除く)、水沢字割田31の2番地
西郷小学校	下川(湯野浜小通学区域を除く)、千安京田、面野山、辻興屋、西沼、長崎、茨新田、馬町字池ノ下23～29番地・字八幡田35～43番地・105～106番地

通学すべき学校	通学区域
藤島小学校	藤島、藤浪一丁目、藤浪二丁目、藤浪三丁目、藤浪四丁目、藤浪五丁目、藤の花一丁目、藤の花二丁目、古郡、大川渡、谷地興屋、下中野目、野田目、越後京田、藤岡、三和、須走、上藤島字鑑田畑・字備中下・字六所畑・字街道西、字三文字の一部、新屋敷、平形、八色木、堂栄、小中島
東栄小学校	添川、蟹畑、東堀越、鎖井興屋、上中野目、平足、川尻、工藤、無音、藤島関根、樺
長沼小学校	長沼
渡前小学校	渡前、和名川、砂塚、上藤島(藤島小通学区域を除く)、荒俣、宝徳、幕野内、大半田、箕升新田、柳久瀬
羽黒第一小学校	古基町、上長屋町、桜小路、下長屋町、亀井町、鶴沢町、池ノ仲、入江町、八日町、松原町、羽黒山
羽黒第二小学校	上川代、中川代、下川代、大口、玉川、清水、市野山、増川新田、野荒町、十文字、戸野、坂ノ下、中里、町屋、染興屋、川行、小増川、金森目、鏡田、野田、仙道、白山、山荒川、東荒川、西荒川、川代山、泉野、八森、海谷森、美野和、執行坂
羽黒第三小学校	松尾、押口、黒瀬、猪俣新田、屋田、狩谷野目、松ヶ岡、中屋、河原、橋東、高寺、中島、石野新田、細谷、赤川、富沢、下馬渡、三ツ橋、緑ヶ丘、希望ヶ丘、瑞穂、桜野
羽黒第四小学校	今野、向山、桜ヶ丘、東山、上野新田、三軒屋
拂引東小学校	黒川、宝谷、たらのき代、田代、馬渡
拂引西小学校	上山添、中田、常盤木字臼井・字関口・字湯殿・字木原(一部)、西荒屋字川原田(一部)、東荒屋字小島・字志田・字押切(一部)、桂荒俣、下山添、丸岡、三干刈
拂引南小学校	西荒屋字柳沢・字谷地田・字角田・字藤野・字杉下・字宮の根・字川原田(一部)、板井川、西片屋、東荒屋字上荒屋・字竹の内・字田中・字押切(一部)、松根、常盤木字木原(一部)
朝日大泉小学校	大鳥、荒沢、倉沢、上田沢、下田沢、松沢
朝日小学校	大針、砂川、行沢、本郷、上名川、下名川、熊出、越中山、中野新田、東岩本
大綱小学校	田麦俣、大綱
温海小学校	一露、温温海、温海、大岩川、楳代、小国
五十川小学校	小菅野代、五十川
嵐ヶ岡小学校	嵐ヶ岡、早田、小岩川、小名部
福栄小学校	関川、越沢、木野俣、温海川、菅野代
山戸小学校	戸沢、山五十川

通学すべき学校	通 学 区 域
鶴岡第一中学校 三小・六小・大泉小 京田小・上郷小	新形町、新形、みどり町、新海町(鶴岡四通学区区域を除く)、大西町、東新斎町、西新斎町、砂田町、淀川町、道田町、城北町、大塚町、美咲町、大部町、柳田字田中36～38番地、白山、矢馳、山田、布目、大淀川、小淀川、寺田、森片、上清水、中清水、下清水、清水新田、安丹、中野京田、平京田、西京田、水沢(字割田31の2番地を除く)、大広、中山、矢引、中沢、大荒、西目、みずほ
鶴岡第二中学校 三小・五小・京田小 栄小	鶴町、上郷町、山王町、道形町、大宝寺町、末広町、日吉町、宝町、鳥居町、切浜町、朝陽町、宝田一丁目、宝田二丁目、宝田三丁目、日和田町、茅原町、余慶町、茅原、文下、道形、大宝寺、高田、北京田、覚岸寺、荒井京田、福田、豊田、林崎、本田、小京田、播磨、平田、中京田、湯野沢
鶴岡第三中学校 一小・二小・蒼小 黄金小	本町一丁目、昭和町、大東町、神明町、苗津町、日出一丁目、日出二丁目、東原町、伊勢原町、桜新町、ほなみ町、苗津、伊勢横内、本町二丁目、三和町、睦町、三光町、双葉町、文園町、千石町、長者町、城南町、海老島町、のぞみ町、日枝、遠賀原、斎藤川原、勝福寺、我老林、外内島、八ツ興屋、青龍寺、滝沢、寿、中橋、民田、高坂、上山谷、金谷、谷定
鶴岡第四中学校 一小・三小・四小 湯田川小・大泉小 田川小	泉町、若葉町、家中新町、馬場町、美原町、本町三丁目、陽光町、稻生一丁目、稻生二丁目、青柳町、小真木原町、新海町29番10号～17号、香田、柳田(鶴一中通学区区域を除く)、湯田川、藤沢、井岡、岡山、田川、少蓮寺、関根、東目、坂野下、砂谷、大机
鶴岡第五中学校 加茂小・湯野浜小 大山小・西郷小	加茂、今泉、油戸、金沢、湯野浜一丁目、湯野浜二丁目、湯野浜、宮沢、大山一丁目、大山二丁目、大山三丁目、友江町、平成町、大山、友江、栃屋、下興屋、下小中、中橋、釜津、馬町、下川、千安京田、面野山、辻興屋、西沼、長崎、茨新田、水沢字割田31の2番地
豊浦中学校	三瀬、小波渡、堅苔沢、由良一丁目、由良二丁目、由良三丁目、由良
藤島中学校	藤島地区全域
羽黒中学校	羽黒地区全域
楯引中学校	楯引地区全域
朝日中学校	朝日地区全域
温海中学校	温海地区全域

4. 小規模校の状況

複式学級の発生校と学級数(小学校)

	平成22年度	平成28年度(見込み)
・ 鶴岡地域	6校(8学級)	6校(13学級)
・ 藤島地域	1校(2学級)	1校(2学級)
・ 羽黒地域	1校(2学級)	2校(4学級)
・ 櫛引地域	—(—)	—(—)
・ 朝日地域	2校(5学級)	2校(6学級)
・ 温海地域	3校(7学級)	3校(7学級)
計	13校(24学級)	14校(32学級)

学年単学級の発生校(小中学校)

	平成22年度	平成28年度(見込み)
・ 鶴岡地域	小8校	小8校、中1校
・ 藤島地域	小2校	小2校
・ 羽黒地域	小3校	小2校
・ 櫛引地域	小2校	小3校
・ 朝日地域	小1校、中1校	小1校、中1校
・ 温海地域	小2校	小2校
計	小18校、中1校	小18校、中2校

複式学級、小規模校が増加

5. 各中学校区の小学校とその状況

鶴一中学校区

大泉小(B)

京田小(B)

上郷小(B)

朝陽三小(C)

朝陽六小(C)

鶴二中学校区

栄小(A)

京田小(B)

朝陽三小(C)

朝陽五小(C)

鶴三中学校区

斎小(B)

黄金小(B)

朝陽一小(C)

朝陽二小(C)

鶴四中学校区

湯田川小(A)

田川小(A)

大泉小(B)

朝陽一小(C)

朝陽三小(C)

朝陽四小(C)

鶴五中学校区

加茂小(A)

湯野浜小(B)

西郷小(B)

大山小(C)

豊浦中学校区

由良小(A)

小堅小(A)

三瀬小(B)

藤島中学校区

長沼小(A)

東栄小(B)

渡前小(B)

藤島小(C)

羽黒中学校区

羽黒一小(A)

羽黒四小(A)

羽黒二小(B)

羽黒三小(B)

櫛引中学校区

櫛引東小(B)

櫛引西小(B)

櫛引南小(B)

朝日中学校区

朝日大泉小(A)

大綱小(A)

朝日小(B)

温海中学校区

五十川小(A)

福栄小(A)

山戸小(A)

温海小(B)

鼠ヶ関小(B)

- (A) : 複式学級のある学校(14校)
 (B) : 全学年が単学級の学校(18校)
 (C) : 上記までに至らない学校(8校)

小中学校の学級数別一覧表（平成22年度実数）

小学校		40校
25～30学級	(C)	1
19～24学級	(C)	3
12～18学級	(C)	4
6～11学級	(B)学年単学級	19
4・5学級	(A)一部複式	9
3学級	(A)完全複式	4

中学校		11校
25～30学級		0
19～24学級		2
12～18学級		4
6～11学級		4
4・5学級	一部学年単学級	1
3学級	全学年単学級	0

三瀬小 75	上郷小 123	京田小 98	大泉小 116	黄金小 93	斎小 111	6	豊浦中 143
羽黒第二小 178	羽黒第一小 65	渡前小 115	東栄小 113	西郷小 133	湯野浜小 147		
鼠ヶ関小 143	温海中 172	朝日小 169	櫛引南小 87	櫛引東小 120	羽黒第三小 198		
		加茂小 53	由良小 53	栄小 51	湯田川小 47	5	朝日中 132
	福栄小 42	羽黒第四小 30	長沼小 47	小堅小 38	田川小 42	4	
		山戸小 28	五十川小 19	大網小 15	朝日大泉小 12	3	

←小学校	学級数	中学校→		
朝陽六小 836	28			
朝陽三小 691	24			
	22	鶴岡一中 692	鶴岡三中 704	
朝陽一小 588	20			
朝陽四小 522	19			
朝陽二小 511	18			
朝陽五小 423	16			
大山小 379	15	鶴岡二中 493		
藤島小 340	14			
	12	鶴岡四中 401	鶴岡五中 382	藤島中 337
	9	羽黒中 261	櫛引中 252	温海中 246
櫛引西小 209	7			

※学校名下の数字は全校児童・生徒数
 ※平成22年度学級編成表に基づく実数

小中学校の学級数別一覧表（平成28年度推計）

小学校		40校
25～30学級	(C)	2
19～24学級	(C)	1
12～18学級	(C)	5
6～11学級	(B)学年単学級	18
4・5学級	(A)一部複式	10
3学級	(A)完全複式	4

中学校		11校
25～30学級		0
19～24学級		2
12～18学級		4
6～11学級		3
4・5学級	一部学年単学級	0
3学級	全学年単学級	2

三瀬小 66	上郷小 102	京田小 97	大泉小 98	黄金小 95	斎小 112	6		
羽黒第三小 173	羽黒第二小 173	渡前小 106	東栄小 95	西郷小 118	湯野浜小 86			
鼠ヶ関小 67	温海小 128	朝日小 148	櫛引南小 83	櫛引東小 82	櫛引西小 163			
	福栄小 45	栄小 35	長沼小 41	小堅小 32	田川小 37	4		
	加茂小 46	由良小 34	五十川小 38	羽黒第四小 26	羽黒第一小 40			
		湯田川小 27	山戸小 22	大網小 18	朝日大泉小 11	3	豊浦中 74	朝日中 86

	←小学校	学級数	中学校→	
朝陽三小 745	朝陽六小 716	25		
		21	鶴岡一中 633	
		20	鶴岡三中 620	
	朝陽一小 529	19		
	朝陽四小 442	16	鶴岡二中 468	
朝陽五小 418	朝陽二小 392	15		
	藤島小 294	12	鶴岡五中 344	
	大山小 305	11	鶴岡四中 344	藤島中 309
		9	羽黒中 227	
		8	櫛引中 219	
		7	温海中 188	

※学校名下の数字は全校児童・生徒数

※22.4.1小学校区別集計と山形県学級編成基準に基づく推計

全校児童数と複式学級の推移(通常学級)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
朝陽一小	588	597	598	564	548	553	529
朝陽二小	511	482	454	431	413	407	392
朝陽三小	691	687	685	697	689	719	745
朝陽四小	522	499	475	483	481	461	442
朝陽五小	423	416	427	428	413	413	418
朝陽六小	836	830	815	807	790	738	716
齊小	111	112	105	107	102	106	112
黄金小	93	93	91	85	91	90	95
湯田川小 (複式学級数)	47	39	37	35	30	30	27
大泉小 (複式学級数)	1	2	1	2	2	2	3
大泉小	116	107	101	99	100	96	98
京田小	98	94	92	96	89	92	97
栄小	51	45	42	39	34	31	35
田川小 (複式学級数)	1	2	1	2	2	2	2
田川小	42	44	46	45	44	37	37
上郷小 (複式学級数)	2	1	2	1	1	2	2
上郷小	123	121	114	103	98	101	102
三瀬小	75	74	73	71	77	70	66
小堅小	38	33	28	30	27	31	32
由良小 (複式学級数)	2	2	2	3	2	2	2
由良小	53	46	46	42	42	36	34
加茂小 (複式学級数)	1	1	2	1	2	2	2
加茂小	53	55	53	53	52	48	46
湯野浜小 (複式学級数)	1	1	1	2	2	1	2
湯野浜小	147	137	120	108	95	87	86
大山小	379	349	349	334	331	328	305
西郷小	133	130	131	135	125	124	118
藤島小	340	340	330	312	286	285	294
東栄小	113	109	112	122	112	102	95
長沼小	47	42	42	41	45	44	41
渡前小 (複式学級数)	2	2	2	2	2	2	2
渡前小	115	112	118	116	124	120	106
羽黒第一小 (複式学級数)	65	60	63	55	57	47	40
羽黒第一小	0	0	1	1	1	2	2
羽黒第二小	178	177	175	175	175	170	173
羽黒第三小	198	192	189	180	187	177	173
羽黒第四小	30	27	25	27	30	25	26
榑引東小 (複式学級数)	2	2	3	3	2	3	2
榑引東小	120	116	98	101	92	85	82
榑引西小	209	198	194	191	173	166	163
榑引南小	87	88	86	92	87	92	83
朝日大泉小 (複式学級数)	12	14	12	16	14	13	11
朝日大泉小	2	3	3	3	3	3	3
朝日小	169	161	153	143	154	150	148
大綱小 (複式学級数)	15	16	15	12	14	16	18
大綱小	3	3	3	3	3	3	3
温海小	172	170	160	150	145	141	128
五十川小	19	23	29	30	36	39	38
鼠ヶ関小 (複式学級数)	2	2	2	2	2	2	2
鼠ヶ関小	143	133	122	109	93	81	67
福栄小 (複式学級数)	42	37	38	43	42	43	45
福栄小	2	2	2	2	2	2	2
山戸小 (複式学級数)	28	22	19	16	20	22	22
山戸小	3	3	3	3	2	2	3
児童数合計	7,232	7,027	6,862	6,723	6,557	6,416	6,285
複式学校数	13	13	14	14	14	14	14
複式学級数	24	26	28	30	28	30	32

※ 平成22年度は全学年、実際の学級編成による人数(=平成22年度学級編成表)で、特別支援児童は含まない、

※ 平成23年度以降は1年次が「22.4.1小学校区別年齢集計」の数値から、2年次以降は前年度の学齢人口がそのまま進級するものとして算出

中学校 全校生徒数の推移(通常学級)

22.4.1現在の地区別の児童・生徒数に基づく推計

	学 校 名	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
1	鶴 岡 一 中	692	702	721	707	699	662	633	619	609	619	617	601	583
2	鶴 岡 二 中	493	499	483	466	482	487	468	430	443	468	459	448	439
3	鶴 岡 三 中	704	704	684	699	691	663	620	609	600	579	551	561	549
4	鶴 岡 四 中	401	392	395	386	362	362	344	337	305	330	328	321	278
5	鶴 岡 五 中	382	377	370	373	363	349	344	310	307	288	295	284	267
6	豊 浦 中	143	129	113	93	74	76	74	80	72	70	67	66	62
7	藤 島 中	337	319	316	306	320	315	309	283	287	281	282	263	255
8	羽 黒 中	261	262	249	252	224	245	227	240	213	214	212	207	196
9	櫛 引 中	252	231	217	204	225	218	219	183	167	170	172	178	160
10	朝 日 中	132	120	127	117	108	95	86	88	88	87	96	92	90
11	温 海 中	246	235	219	223	204	196	188	185	175	162	152	151	138
	計 (人)	4,043	3,970	3,894	3,826	3,752	3,668	3,512	3,364	3,266	3,268	3,231	3,172	3,017

※ H22は全学年とも実際の学級編成による人数(=平成22年度学級編成表)で、特別支援生徒は含まない。

※ H23以降は1年次が「22.4.1学校区別・年齢別レポート」(特別支援含む生データ)の数値から、
2年次以降は前年度の学齢人口がそのまま進級するものとして算出

6. 小規模校のメリット・デメリットの例

○…学校の適正配置に関して都道府県・市町村が作成している計画等を参考に文部科学省において作成

●…市の小規模学校経営研修会(H21)にて取りまとめた内容で上記以外のもの

	メリット	デメリット
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 ● 子どもと教師の信頼関係や相互理解が深い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ○ 1学年1学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。 ● 複式になると片方の学年の学習を与えるだけなので、思考のプロセスが見えない。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ○ 中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。 ○ 児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りにくい。 ○ 部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。 ● 児童会では限られた委員会活動しかできない。 ● 準備、後片付けに時間がかかる。 ● 学校図書、教材の種類が少ない。
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ○ 異学年間の縦の交流が生まれやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ○ 集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 ○ 切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。 ● 学校行事での役割、学習面の評価が固定化しやすい。 ● 人数が小さいため、活気に乏しいことが多い。 ● 多人数の集団に加わっての行動では引っ込み思案の生徒が多い。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。
学校運営面・ 財政面	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい ○ 学校が一体となって活動しやすい。 ● 業務と責任が明確になり、意欲的に取り組みやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 ○ 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 ○ 一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 ○ 教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者や地域社会との連携が図りやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ PTA活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。

小学校の学校規模別の活動状況

(平成22年度「学校運営概要」による)

1. 学校規模別の委員会活動の状況

学校規模	3学級以下	4～6学級	7～11学級	12～18学級	19学級以上	
平均委員会種類数	2.5	5.3	7.0	9.5	10.5	
委員会種類一覧	運営系 新聞系 保健系	運営 新聞 放送 図書 保健 体育 環境 給食 飼育栽培 ボランティア	運営 新聞 放送 図書 体育 給食 飼育栽培 ボランティア	運営 新聞 放送 図書 保健 体育 環境 給食 飼育栽培 ボランティア 集会	運営 新聞 放送 図書 保健 体育 環境 給食 飼育栽培 ボランティア ベルマーク 生活安全	

※1校のみ

2. 学校規模別のクラブ活動の状況

学校規模	3学級以下	4～6学級	7～11学級	12～18学級	19学級以上	
平均クラブ種類数	1.8	4.8	7.0	12.2	16.7	
クラブ種類一覧	イラスト・マンガ エコロジー 手芸 HIPHOP 銅版 月替わり	屋内スポーツ パソコン 科学・理科 吹奏楽・軽音楽 昔の遊び 美術・芸術 スキー 屋外スポーツ Gボール、Gゴルフ 囲碁・将棋 家庭科 イラスト・マンガ 工作・手芸 百人一首 アウトドア マリンジャー 茶道・生け花 民舞・和太鼓 ふるさと芸能 地域・自然探検	スポーツ パソコン 科学・理科 吹奏楽・軽音楽 昔の遊び チャレンジギネス 手づくり	スポーツ パソコン 科学・理科 吹奏楽・軽音楽 昔の遊び 美術・芸術 釣り 球技 Gボール、Gゴルフ 囲碁・将棋 家庭科 イラスト・マンガ 工作・手芸 百人一首 卓球 バドミントン 茶道・生け花 和太鼓 園芸 絵手紙 パッチワーク バイオリン 文化等 ギター ネイチャーゲーム アスレチック カメラ 室内ゲーム	スポーツ パソコン 科学・理科 吹奏楽・軽音楽 昔の遊び 美術・芸術 一輪車 球技 囲碁・将棋 家庭科 イラスト・マンガ 工作・手芸 百人一首 卓球 バドミントン 焼き物 室内ゲーム 園芸 地域・自然探検 ダンス	スポーツ パソコン 科学・理科 吹奏楽・軽音楽 昔の遊び 美術・芸術 一輪車 球技 囲碁・将棋 家庭科 イラスト・マンガ 工作・手芸 百人一首 卓球 バドミントン 焼き物 室内ゲーム 園芸 地域・自然探検 ダンス

中学校の学校規模別の活動状況

(平成21年度「中学校部活動実態調査」による)

1. 学校規模別の部活動の平均種目数

学校規模	5～6学級	7～11学級	12～18学級	19学級以上
運動系男子	4.0	7.3	10.3	13.0
運動系女子	4.5	8.3	9.8	13.0
文化系、その他	1.0	2.0	2.5	5.5
平均種目数	9.5	17.6	22.6	31.5

2. 学校規模別の部活動の種目一覧

学校規模	5～6学級	7～11学級	12～18学級	19学級以上
運動系男子	バスケ サッカー 剣道 野球 陸上	バスケ サッカー 剣道 野球 陸上 ソフトテニス 卓球 バレー 柔道 水泳 ヨット	バスケ サッカー 剣道 野球 陸上 ソフトテニス 卓球 バレー 柔道 水泳 バドミントン アーチェリー 相撲	バスケ サッカー 剣道 野球 陸上 ソフトテニス 卓球 バレー 柔道 水泳 バドミントン アーチェリー スキー 体操
運動系女子	ソフトボール バスケ ソフトテニス 体操 新体操 バレー 水泳 陸上 スキー	ソフトボール バスケ ソフトテニス 体操 新体操 バレー 水泳 陸上 柔道 剣道 バド 卓球 サッカー ヨット	ソフトボール バスケ ソフトテニス 体操 新体操 バレー 水泳 陸上 柔道 剣道 バド 卓球 アーチェリー	ソフトボール バスケ ソフトテニス 体操 新体操 バレー 水泳 陸上 柔道 剣道 バド 卓球 アーチェリー
文化系 その他	吹奏楽 美術	吹奏楽 美術 総合文化芸術	吹奏楽 美術 総合文化芸術 科学 合唱	吹奏楽 美術 科学 合唱 パソコン その他

学校規模別の教職員配置数

1. 小学校

学校規模		3学級	6学級	9学級	12学級	15学級	18学級	21学級	24学級
該当校		朝日大泉小、大綱小、五十川小、山戸小	斎小、黄金小、大泉小、京田小、上郷小、三瀬小、湯野浜小、西郷小、東栄小、渡前小、羽黒第一小、羽黒第二小、羽黒第三小、櫛引東小、櫛引南小、朝日小、温海小、鼠ヶ関小	無し	無し	大山小	朝陽二小	無し	朝陽三小
学級編制基準		33人以下(40人以下は1)							
学年ごとの学級数	現状	0.5	1	1~2	2	2~3	3	3~4	4
学級人数	現状	3~5	5~40	—	—	22~31	23~32	—	25~31
学年人数	現状	0~9	5~40	—	—	53~70	71~98	—	101~124
全校人数	現状	12~28	75~198	—	—	379	511	—	691
	理論値	—	43~240	243~318	246~396	324~495	402~594	501~693	600~792
クラス替え	可:○ 不可:×	×	×	○	○	○	○	○	○
教職員配当基準※ (22年度)	校長	1	1	1	1	1	1	1	1
	教頭	1	1	1	1	1	1	1	1
	担任	3	6	9	12	15	18	21	24
	級外	0	1	1	1	2	2	2	2
	計	5	9	12	15	19	22	25	28
複式学級		3							

※平成22年度の学級編制状況をもとに整理

※このほか、学年単学級で「34人~40人」の多人数学級に対しては、次の基準で教員を配置し、副担任又は少人数指導ができるようにする。

○小学校第1学年~小学校第2学年:「1学級に1名」の基準で配置する。

○小学校第3学年~中学校第3学年:「2学級に1名」の基準で配置する。

※「学級人数」、「学年人数」、「全校人数」の「現状」とは、該当校のそれぞれの最少人数~最大人数の実数をいい、「全校人数」の「理論値」とは、「教育山形さんさんプラン」における理論上の最少人数~最大人数をいう。

学校規模別の教職員配置数

2. 中学校

学校規模		3学級	6学級	9学級	12学級	15学級	18学級	21学級	24学級
該当校		無し	豊浦中	羽黒中、 櫛引中、 温海中	鶴岡四中、 鶴岡五中、 藤島中	鶴岡二中	無し	無し	無し
学級編制基準		33人以下(40人以下は1)、第3学年は40人以下							
学年ごとの学級数	現状	1	2	3	4	5	6	7	8
学級人数	現状	—	21~27	24~30	26~37	29~39	—	—	—
学年人数	現状	—	43~54	72~92	116~148	158~176	—	—	—
全校人数	現状	—	143	246~261	337~401	493	—	—	—
	理論値	13~120	123~212	215~318	321~424	427~530	533~636	639~742	745~848
クラス替え	可:○ 不可:×	×	○	○	○	○	○	○	○
教職員配当基準※ (22年度)	校長	1	1	1	1	1	1	1	1
	教頭	1	1	1	1	1	1	1	1
	担任	3	6	9	12	15	18	21	24
	級外	2	3	5	6	7	10	11	12
	計	7	11	16	20	24	30	34	38
複式学級									

※平成22年度の学級編制状況をもとに整理

※このほか、学年単学級で「34人~40人」の多人数学級に対しては、次の基準で教員を配置し、副担任又は少人数指導ができるようにする。

○小学校第3学年~中学校第3学年:「2学級に1名」の基準で配置する。

※「学級人数」、「学年人数」、「全校人数」の「現状」とは、該当校のそれぞれの最少人数~最大人数の実数をいい、

「全校人数」の「理論値」とは、「教育山形さんさんプラン」における理論上の最少人数~最大人数をいう。

7. 学校適正配置の根拠

1. 学校教育法における位置付け

(学校設置基準)

第3条 学校を設置しようとする者は、学校の種類に応じ、文部科学大臣の定める設備、編制その他に関する設置基準に従い、これを設置しなければならない。

(小学校設置義務)

第38条 市町村は、その区域内にある学齢児童を就学させるに必要な小学校を設置しなければならない。

(準用基準)

第49条 ……第38条……までの規定は、中学校に準用する。

2. 鶴岡市総合計画【基本計画】における位置付け

第3章 未来を担う子どもたちが、よりよい環境のもとでいきいきと育ち、それぞれの世代がともに学びあえる地域社会を創ります。

第1節 学校教育の充実

(2) 適正な教育環境整備

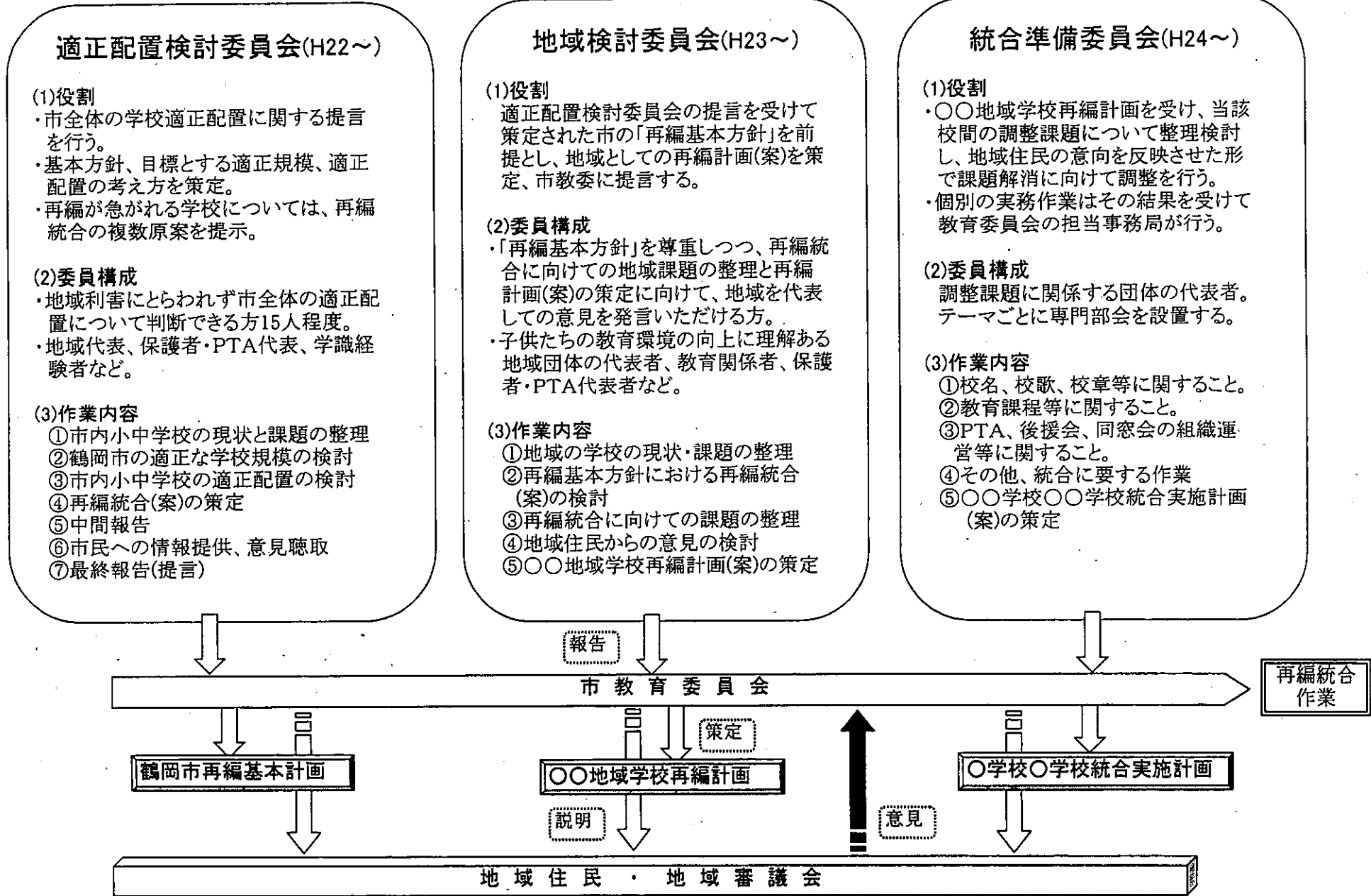
○施策の方向

地域社会の過疎化及び少子化などによる児童数の減少により、学校の小規模校化が進み、複式学級のある学校が増加傾向にあることから、子どもたちにとって望ましい学校の規模、施設設備、学区、通学方法、学校配置などについて総合的な検討を行い、適正な教育環境の整備を進めます。

○主な施策

- ①学校の規模による教育効果を総合的かつ多角的な視点から調査、研究し、適正な規模や配置などについて検討します。
- ②学校施設は、地域住民にとってコミュニティの中核や防災拠点としての役割を担うものであることに十分配慮しながら、年次計画に基づき、安全・安心な教育環境の整備を進めるとともに、耐震化を推進します。
- ③通学における児童生徒の安全確保に配慮し、保護者や地域の協力を得ながら、通学対策の充実を図ります。

8. 学校適正配置の検討体制



鶴岡市学校適正配置検討委員会 委員名簿

要綱	氏名	所属	要綱	氏名	所属
	(ふりがな)	職名		(ふりがな)	職名
地域代表 (1号)	五十嵐 寅吉	鶴岡地域	(3号) 学校代表	天野 卓夫	鶴岡市小学校長会
	(いからし とらきち)	鶴岡市自治振興会連絡協議会会長		(あまの たくお)	会長 (朝四小)
	佐藤 吉一	藤島地域		松浦 昇	鶴岡市中学校長会
	(さとう よしかず)	元鶴岡青年会議所理事長		(まつうら のぼる)	会長 (鶴一中)
	早坂 眞一	羽黒地域	学識経験者 (4号)	石黒 慶一	山形県歯科医師会
	(はやさか しんいち)	鶴岡市青少年育成市民会議羽黒地区会議会長		(いしぐろ けいいち)	会長
	金内 勝雄	檜引地域		金野 信男	学校法人羽黒学園
	(かなうち かつお)	檜引体育協会会長		(こんの しんゆう)	顧問
	阿部 努	朝日地域		三浦 光哉	山形大学地域教育文化学部
	(あべ つとむ)	会社員		(みうら こうや)	教授
本間 文夫	温海地域	齋藤 英雄	鶴岡市教育委員会		
(ほんま ふみお)	温海地域自治会長会会長	(さいとう ひでお)	前教育長		
保護者及び PTA代表 (2号)	今野 久良	鶴岡市PTA連合会			
	(こんの ひさよし)	会長			
	石塚 治己	鶴岡市PTA連合会			
	(いしづか はるき)	元会長			
	小野寺 礼子	朝日中学校PTA			
(おのでら れいこ)	広報委員				

9. 中間報告の結論

本市の目指す学校規模

- 複式学級の解消に努める
- 小学校の学校規模は6学級～24学級とする
中学校の学校規模は3学級～18学級とする
- 1学級あたり15人～20人以上を確保できる規模を目指す

適正配置の手法

- 今次の適正化の手法は、学校の統廃合による

適正配置の範囲

- 学区再編は、当面、合併旧市町村の区域内で行う

基本的な進め方

- 今次の学区再編は、原則として中学校区単位で行う
- 複式学級を有する地域は緊急性が高い地域と位置付ける
- 学校統合は、地域との関係や経緯に配慮して進め、
新たな学校の開校は平成28年4月までに順次行うこととする

配慮事項

- 正確な情報提供、地域意見の傾聴に努める
- 地域と連携し作業を推進する
- 統合校の子どもへの必要な支援に努める
- 学校施設、跡地の有効利用を検討する

学校適正配置事業 基本スケジュール(案)

段階	学校の状況(H28)	校名	学校の状況			児童数		年 度											
			完全複式	一部複式	単学級	22年度	28年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
A群	完全複式校	小堅小	H25			38	32												
		大網小	H22~			15	18												
		朝日大泉小	H23~			12	11												
		山戸小	H22~※1			28	22												
		羽黒第四小	H24~※2			30	26												
	一部複式校	湯田川小	H28~	H22~		47	27												
		栄小		H22~		51	35												
		田川小		H22~		42	37												
		由良小		H22~		53	34												
		加茂小		H22~		53	46												
		長沼小		H22~		47	41												
		羽黒第一小		H24~		65	40												
		五十川小		H22~		19	38												
		福栄小		H22~		42	45												
B群	全学年単学級	斎小			H22~	111	112												
		黄金小			H22~	93	95												
		大泉小			H22~	116	98												
		京田小			H22~	98	97												
		上郷小			H22~	123	102												
		三瀬小			H22~	75	66												
		湯野浜小			H22~	147	86												
		西郷小			H22~	133	118												
		東栄小			H22~	113	95												
		渡前小			H22~	115	106												
		羽黒第二小			H22~	178	173												
		羽黒第三小			H22~	198	173												
		櫛引東小			H22~	120	82												
		櫛引西小			H26~	209	163												
		櫛引南小			H22~	87	83												
		朝日小			H22~	169	148												
		温海小			H22~	172	128												
		鼠ヶ関小			H22~	143	67												
C群	一部単学級(大山小) もしくは 全学年2学級以上	朝陽一小				588	529												
		朝陽二小				511	392												
		朝陽三小				691	745												
		朝陽四小				522	442												
		朝陽五小				423	418												
		朝陽六小				836	716												
		大山小				379	305												
		藤島小				340	294												

※1 H26・27は一部複式

※2 H26・28は一部複式

鶴岡市農業の現状と課題（担い手編）

1. 農業従事者の減少（高齢化の進行と農業後継者不足）

（1）家族経営の現状

鶴岡市の販売農家数は、平成2年（1990年）7,677経営体から平成17年（2005年）の5,444経営体とこの15年間で3割も減少している。平成2年から平成7年、平成7年から平成12年、平成12年から平成17年の各5年間とも、およそ10%ずつ減少している。

また、販売農家の減少率については、非常に地域差があり、同じく15年間の推移をみると、鶴岡地域、藤島地域、羽黒地域、櫛引地域、朝日地域は25～31%の減少であるのに対し、温海地域の場合は15年間で半減している。特に、平成12年（2000年）から平成17年（2005年）の5年間で29%も減少しており、離農が進んでいる。

表－1 販売農家数の推移

（単位：経営体、%）

	実数				減少率			
	1990年	1995年	2000年	2005年	90→95	95→00	00→05	90→05
鶴岡市	7,677	6,801	6,138	5,444	11.4%	9.7%	11.3%	29.1%
鶴岡地域	2,730	2,419	2,187	1,993	11.4%	9.6%	8.9%	27.0%
藤島地域	1,295	1,133	1,014	892	12.5%	10.5%	12.0%	31.1%
羽黒地域	1,200	1,092	981	902	9.0%	10.2%	8.1%	24.8%
櫛引地域	986	867	799	729	12.1%	7.8%	8.8%	26.1%
朝日地域	723	674	604	532	6.8%	10.4%	11.9%	26.4%
温海地域	743	616	553	396	17.1%	10.2%	28.4%	46.7%

出典：農林業センサス

(2) 農業就業人口の現状

鶴岡市の農業就業人口は、平成2年(1990年)で12,107人、平成17年(2005年)が9,716人であり、平成2年から平成17年の15年間で2,391人、20%減少している。

地域別に見ると、朝日地域は平成12年までは増加していたものが、平成17年では減少に転じている。朝日地域以外では12~32%の減少を示しており、地域によって大きな差が認められる。減少率の高い順に、温海地域32.0%、藤島地域27.2%、羽黒地域24.3%、鶴岡地域17.9%、櫛引地域12.3%となっており、中山間地域や水稻単作地帯での減少率が著しい。

販売農家1戸あたりの農業就業人口についてみると、平成17年は、鶴岡地域が2.0人/戸、藤島地域が1.8人、羽黒地域が1.7人、櫛引地域で1.9人であるのに対し、朝日地域や温海地域が1.4人であり、0.6人もの差がある。

また、平成2年から平成17年の15年間で、1戸あたりの農業就業人口は、朝日地域・温海地域が0.4人、櫛引地域の0.3人、鶴岡地域0.2人、藤島地域0.1人と増加しているが、羽黒地域は「増減なし」となっている。

このことは、複合経営により農業就業者が増えた場合と、農家数が減少したことにより1戸当りの就業人口が増えた場合との二つのケースが考えられる。

いずれにしても、複合経営による経営の拡大・安定化を図ることと、地域農業の担い手としての農業就業人口の確保が喫緊の課題である。

表-2 販売農家における地域別農業就業人口の推移と農家1戸あたり農業就業人口(販売農家)

		実数(単位:戸、人)				1戸当たり農業就業人口(人)		
		販売農家計	計	男子	女子	計	男子	女子
平成2年	鶴岡市	7,677	12,107	5,998	6,109	1.6	0.8	0.8
	鶴岡地域	2,730	4,765	2,321	2,444	1.8	0.9	0.9
	藤島地域	1,295	2,240	1,205	1,035	1.7	0.9	0.8
	羽黒地域	1,200	2,027	1,070	957	1.7	0.9	0.8
	櫛引地域	986	1,552	765	787	1.6	0.8	0.8
	朝日地域	723	733	318	415	1.0	0.4	0.6
	温海地域	743	790	319	471	1.0	0.4	0.6
平成7年	鶴岡市	6,801	10,139	4,968	5,171	1.5	0.7	0.8
	鶴岡地域	2,419	4,045	1,977	2,068	1.7	0.8	0.9
	藤島地域	1,133	1,799	949	850	1.6	0.8	0.8
	羽黒地域	1,092	1,651	858	793	1.5	0.8	0.7
	櫛引地域	867	1,305	628	677	1.5	0.7	0.8
	朝日地域	674	689	285	404	1.0	0.4	0.6
	温海地域	616	650	271	379	1.1	0.4	0.6
平成12年	鶴岡市	6,138	10,075	4,878	5,197	1.6	0.8	0.8
	鶴岡地域	2,187	4,062	1,923	2,139	1.9	0.9	1.0
	藤島地域	1,014	1,697	879	818	1.7	0.9	0.8
	羽黒地域	981	1,615	823	792	1.6	0.8	0.8
	櫛引地域	799	1,302	610	692	1.6	0.8	0.9
	朝日地域	604	752	345	407	1.2	0.6	0.7
	温海地域	553	647	298	349	1.2	0.5	0.6
平成17年	鶴岡市	5,444	9,716	4,856	4,860	1.8	0.9	0.9
	鶴岡地域	1,993	3,913	1,904	2,009	2.0	1.0	1.0
	藤島地域	892	1,630	875	755	1.8	1.0	0.8
	羽黒地域	902	1,535	787	748	1.7	0.9	0.8
	櫛引地域	729	1,361	674	687	1.9	0.9	0.9
	朝日地域	532	740	358	382	1.4	0.7	0.7
	温海地域	396	537	258	279	1.4	0.7	0.7

出典：農林業センサス

(3) 基幹的農業従事者（ふだん主として自家農業に従事した者）に占める高齢者の現状

基幹的農業従事者について、平成7年から平成17年にかけての10年間の推移を見ると、6,059人から6,496人と市全体で人、7.2%増加している。うち、65歳以上の高齢者については2.2倍に急増している。

平成17年の基幹的農業従事者に占める65歳以上の割合は、45%で、農業従事者の高齢化が急速に進行していることを示している。

地域別で見ると、の10年間で藤島地域が2.7倍、羽黒地域の2.4倍、鶴岡地域と櫛引地域の2.2倍と平野部で急速に高齢化している。これに対し、温海地域は1.5倍、朝日地域は1.3倍と増加率は比較的ゆるめとなっている。平成17年の65歳以上の高齢者率を見ると、温海地域が59%と高く、次いで櫛引地域の47%、藤島地域の46%、鶴岡地域と羽黒地域の44%であり、朝日地域においては32%と比較的低いのが特徴となっている。このように、地域農業を支えているのは高齢農業者に負うところが大きい。若い農業後継者や新規就農者の確保が依然として低位にある中、UJ Iターンの新規就農者の確保や意欲ある高齢者の営農活動の継続、さらには世代交代がスムーズに行なわれるような仕組みづくりが急務であると考えられる。

表-3 地域別基幹的農業従事者における高齢化の推移(販売農家)

(単位：人)

	平成7年			平成12年			平成17年			平成17年-平成7年		
	基幹的農業従事者			基幹的農業従事者			基幹的農業従事者			基幹的農業従事者		
	実数	うち65歳以上		実数	うち65歳以上		実数	うち65歳以上		増加数	うち、65歳以上	
		実数	比率		実数	比率		実数	比率		増加数	増加率
鶴岡市計	6,059	1,314	21.7%	6,202	2,356	38.0%	6,496	2,896	44.6%	437	1,582	120.4%
鶴岡地域	2,684	543	20.2%	2,788	994	35.7%	2,830	1,244	44.0%	146	701	129.1%
藤島地域	1,073	186	17.3%	1,071	387	36.1%	1,064	493	46.3%	-9	307	165.1%
羽黒地域	942	190	20.2%	894	308	34.5%	1,034	451	43.6%	92	261	137.4%
櫛引地域	774	187	24.2%	839	351	41.8%	882	411	46.6%	108	224	119.8%
朝日地域	286	94	32.9%	318	161	50.6%	394	126	32.0%	108	32	34.0%
温海地域	300	114	38.0%	292	155	53.1%	292	171	58.6%	-8	57	50.0%

出典：農林業センサス

2. 担い手農業者と集落営農

(1) 認定農業者の状況

本市の認定農業者は、平成22年3月末現在で1,707経営体、その経営耕地面積は10,677haで全国トップレベルとなっている。これらの認定農業者は、本市の販売農家数5,444戸の31%、経営耕地面積16,105haの66%を占める。年代的には50歳～60歳が中心であり、平均経営規模は6.3ha余りで、経営意欲及び生産技術の面で本市農業を支える中核的担い手となっている。

地域別に見ると、認定農業者の割合は藤島地域が39.7%と高く、次いで鶴岡地域の39.3%、羽黒地域の32.6%、櫛引地域の27.3%と続き、経営規模の小さい中山間地域の朝日地域は10.2%、温海地域は5.6%という状況である。

また、認定農業者の経営耕地面積の割合は、羽黒地域が72.9%と高く、次いで藤島地域が68.7%、鶴岡地域との68.4%、櫛引地域の65.4%など、平野部においては認定農業者への農地利用集積が図られているのに対し、中山間地域である朝日地域では40.9%、温海地域では29.6%にとどまり、カバー率は低い。

表-4 認定農業者及び経営耕地面積の状況（平成22年3月末）

(単位:戸、経営体、ha)

区 分	鶴岡地域	藤島地域	羽黒地域	櫛引地域	朝日地域	温海地域	合 計
販売農家数(A)	1,993	892	902	729	532	396	5,444
経営耕地面積(B)	6,255	3,360	3,149	1,972	889	480	16,105
認定農業者数(C)	784	354	294	199	54	22	1,707
認定農業者の経営耕地面積(D)	4,278	2,307	2,296	1,290	364	142	10,677
(C)/(A)	39.3%	39.7%	32.6%	27.3%	10.2%	5.6%	31.4%
(D)/(B)	68.4%	68.7%	72.9%	65.4%	40.9%	29.6%	66.3%
(B)/(A)	3.1	3.8	3.5	2.7	1.7	1.2	3.0
(D)/(C)	5.5	6.5	7.8	6.5	6.7	6.5	6.3

※ 出典：2005年農林業センサス、農業委員会資料

(2) 新規就農者の現状

山形県が実施した新規就農者動向調査によると、鶴岡市における新規就農者の数は、毎年20人程度と極めて少なく、平成13年から22年までの10年間で174名にとどまっており、16年以降は毎年20人未満と減少傾向で推移しているが、平成21年からは景気低迷等により他産業への就職が厳しくなっていることや、国・県における就農支援策が刺激となって増加に転じている。

地域別に見ると、鶴岡地域が87名で約半数を占め、次いで藤島地域、羽黒地域、櫛引地域と続き、朝日地域と温海地域では最近の就農者はゼロに近く、地域間の格差がますます拡大する傾向にある。

また、新規就農者の経歴を見ると、上記の174名のうち、新規学卒者が54名で31%を占め、そのうち、農業高校及び県立農業大学校の卒業生が23名で、半数以上が農業関係の学校以外からの就農となっている。また、Uターン者は103名と59%を占めており、新規学卒者より社会人からの就農が増えている。さらには、他産業から17名就農しており、主に農業生産法人への就農となっている。

農業就業人口の減少と高齢化の急速な進行の中、次代の地域農業の担い手となる新規就農者の安定確保は喫緊の課題である。

表-5 新規就農者の動向

(単位:人)

	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H13~H22
鶴岡地域	12	10	11	4	11	1	8	4	14	12	87
藤島地域	6	4	2	6	3	1	3	0	1	1	27
羽黒地域	0	5	4	1	0	1	2	4	3	5	25
櫛引地域	3	4	1	2	3	3	1	7	1	0	25
朝日地域	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	6
温海地域	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1	4
合計	23	25	21	14	18	6	14	15	19	19	174

出典：山形県新規就農者動向調査

表-6 経歴別新規就農者数

(単位:人)

	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H13~H22
新規学卒者	9	6	7	5	8	3	7	1	2	6	54
農業高校					2	0	0	0	1	0	3
その他高校	4			1	1	0	0	0	0	2	8
県農大	1	4	5	2		3	2	1	1	1	20
4年制大学	3	1	1		1	0	1	0	0	1	8
その他	1	1	1	2	4	0	4	0	0	2	15
Uターン	12	18	14	9	10	2	3	14	14	7	103
新規参入者	2	1				1	4	0	3	6	17
合計	23	25	21	14	18	6	14	15	19	19	174

出典：山形県新規就農者動向調査

(3) 集落営農組織の現状

平成19年4月から導入された国の水田経営所得安定対策（旧品目横断的経営安定対策）では、担い手の育成を目指し、一定規模以上の認定農業者と集落営農組織に支援対象が絞り込まれた。農家数の減少や農業従事者の高齢化が進む中で、兼業農家、高齢農家、女性が意欲をもって農業を続けるためには、集落・地域の中で支えあう体制が必要不可欠である。このため、これまで集落座談会の開催等を通して、全集落を対象に集落営農の組織化について普及啓発を進めてきた。しかし、個別経営志向が強いことや経理の一元化、税制上の問題等から、集落営農の組織化はなかなか進まない状況にあり、平成22年3月末現在、27団体の設立にとどまっている。

特に、担い手の確保が困難な中山間地域においては、重点的に推進することとしているが、温海地域ではいまだ組織化が進展していない。

表-7 集落営農の組織化

地域名	組織形態			関係集落数	構成員数 (戸)	対象農地面積 (ha)	備考
	特定団体	農作業 受託組織	特定法人				
鶴岡		12	1	24	335	854.4	
藤島	4		1	5	97	226.6	
羽黒			1	1	12	38.6	
櫛引	2			2	28	50.4	
朝日	6			7	140	177.6	
温海							
計	12	12	3	39	612	1347.6	

出典：鶴岡市農政課調べ

(4) 農業生産法人の現状

農業生産法人については、1戸法人から集落営農組織まで、様々な形態の法人がある。現状では、集落営農組織については、5年以内の法人化が目標となっているが、クリアすべき課題があり、農業生産法人が急激に増えることは考えにくい。経理・税制・融資・雇用などの点で法人化することのメリット措置も多いので、前向きに対応することが必要である。

表-8 農業生産法人の状況(平成22年3月末現在)

地域名	(単位:件、経営体)					
	農業生産法人		経営面積(ha)		認定農業者	
	全体	株式会社等	全体	株式会社等	全体	株式会社等
鶴岡	24	16	342.1	196.7	19	14
藤島	16	8	227.2	120.3	14	7
羽黒	6	4	145.2	40	6	4
櫛引	4	2	66.2	66.2	2	2
朝日	0	0	0	0	0	0
温海	1	1	—	—	0	0
計	51	31	780.7	423.2	41	27

出典：鶴岡市農業委員会調べ